

④協議会の運営体制（案）

沖縄県サンゴ礁保全協議会（以下、「協議会」）は、設立趣意書に掲げられた理想の元に、基本理念に示された目標に向けて、協議会規約を制定し設立された、沖縄県内でサンゴ礁保全活動を推進するためにさまざまな関係者が集まる場である。

つまり、協議会の大きな目的はサンゴ礁保全活動を推進することであり、協議会という組織はさまざまな立場の関係者が集い、情報交換ができる『ネットワークのネットワーク』としての機能をもっている。

また、協議会は、参加するメンバー及び県内外の多様な関係者が、それぞれの立場でサンゴ礁保全活動を実行できるよう支援するため、理事会及び事務局を設置してその組織を維持するものである。

平成 20 年度は協議会設立初年度であったため、協議会としての活動は大きく、①理事会の開催、②総会の開催、③シンポジウムの開催、の 3 つの活動に絞り、組織体制の確立に努めた。

平成 21 年度以降はこの確立された体制の下に、本来の協議会の目的である『サンゴ礁保全活動の推進』に関する活動を行うために、協議会組織の運営と保全活動の推進という 2 つの活動を平行して進めていく。

そこで、この 2 つの活動を実施していくための協議会の運営体制について、以下のように検討した。

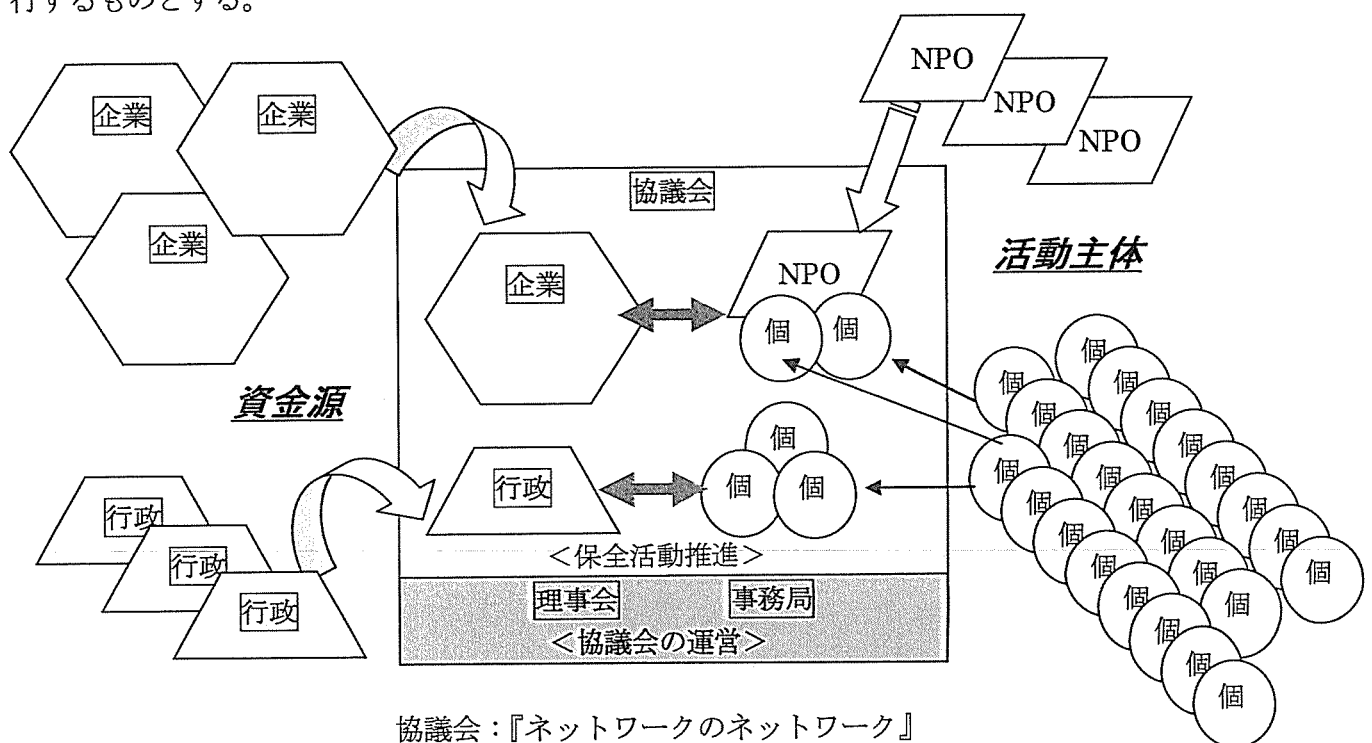
●協議会の運営と保全活動の推進

協議会では、組織自体を運営・維持しながら会員及び県内の関係者が実施するサンゴ礁保全活動を推進することを目的としている。

しかし、現状では組織運営及び保全活動推進のための一定の資金は確保できていない。県内外の企業や団体からの寄付、行政あるいは団体等が実施している助成金等の資金源はあるものの、それらを確保できる可能性及び額はさまざまである。

そこで平成 21 年度は、経費をできる限り削減するよう工夫して、組織維持に必要な不可欠な組織運営を行い、組織内の情報交換、ネットワークのネットワーク機能を確保する。

そして、保全活動の推進については、協議会から申請可能な助成金等を探し、資金調達を行って実行するものとする。



④-1. 協議会の運営：事務局体制の検討（理事会の開催、総会の開催、+シンポジウムの開催）

沖縄県サンゴ礁保全協議会（以下、「協議会」）は、平成20年度の沖縄県文化環境部自然保護課事業「民間参加型サンゴ礁保全活動推進事業」実施期間に設立された。そのため、年度内は同事業の事務局が協議会の事務局を兼任し、理事会及び総会・シンポジウムの開催を実施する。

しかし、同事業は平成20年度で終了するため、現事務局もその業務を終了する。

そこで、平成21年度以降、協議会活動として理事会及び総会・シンポジウムを継続するため、新規事務局をどのように設置して協議会を運営するか、以下のように検討した。

●現在（平成20年度）の協議会の体制

【組織体制と機能】

理事会：課題の決議

委員会：個別の課題の検討

事務局：課題の提案、会議の準備・開催・記録・フォロー、会員への呼びかけ、会員の管理、関連文書の管理、経費の管理

【協議会の活動】

理事会の開催

総会の開催

シンポジウムの開催

【運営体制】

理事会人件費：無償

事務局人件費：有償（県事業で負担）

理事会・総会経費（会場費・資料準備等事務経費）：予算措置有り（県事業で負担）

シンポジウム開催経費（会場費・資料準備等事務経費）：予算措置有り（県事業で負担）

●平成21年度以降の想定される状況

理事会人件費：無償

事務局活動経費（人件費+資料準備等事務経費等）：~~有償（県事業で負担）~~無償

理事会・総会経費（会場費）：~~予算措置有り（県事業で負担）~~無し

シンポジウム開催経費（会場費+講演経費等）：~~予算措置有り（県事業で負担）~~無し

●新たに事務局を設置した場合の経費概算：421万円

①事務局職員（給与）：15万円/月×12月=180万円

②家賃（敷・礼金込）：8万円/月×14月=112万円

③水道光熱費：2万円/月×12月=24万円

④賃借料（OA機器等）：3万円/月×12月=36万円

⑤消耗品費：2万円/月×12月=24万円

⑥事務用品等費：2万円/月×12月=24万円

⑦法定福利費：人件費×0.116=21万円

●事業費の経費概算：55万円

①理事会・総会経費（会場費）：5万円×1回=5万円

②シンポジウム開催経費（会場費+講演経費等）：10万円×1回+40万円×1回=50万円、

●平成 21 年度以降の事務局設置方法の選択肢

<選択肢①>

経費（約 500 万円）を調達し、新たに事務局を設置する

メリット ☆：高額の資金が調達できれば、現状と同じ体制で協議会を運営できる。

デメリット★：資金の調達が難しい。

<選択肢②>

経費（約 500 万円）を調達せず、無償で事務局を受託する機関/団体/個人を見つける

メリット ☆：高額の資金調達の手間が要らず、現状と同じ体制で協議会を運営できる。

デメリット★：受託先を見つけるのが難しい。

<選択肢③>

事務局機能を絞り込み、経費を削減した上で、無償で事務局を受託する機関/団体/個人を見つける

メリット ☆：経費を削減するため、受託先の可能性が②よりも広がる。

デメリット★：経費の削減に工夫が必要。事務局機能を絞り込むため、運営体制にも工夫が必要。

●平成 21 年度に可能性のある資金源

①「ふるさと納税制度」事業費（50 万程度）（11 月予算申請、1 月事業選定）

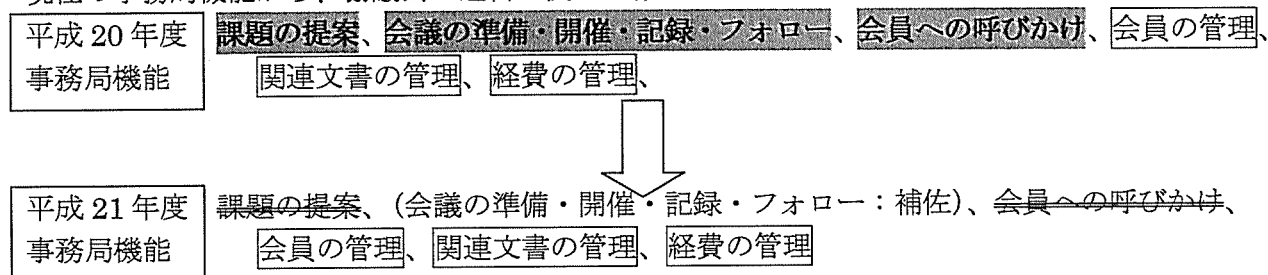
②「河川整備基金」（～500 万）（11/28 申請締め切り）

③

●事務局の設置案（選択肢③）＋オプション

1) 事務局機能の絞り込み

現在の事務局機能から、協議会の運営に関わる機能を削減し、事務的な機能に絞り込む



2) 理事会・運営委員会の設置

事務局から削減した協議会の運営に関わる機能を果たすため、理事会に運営委員会を設置する。

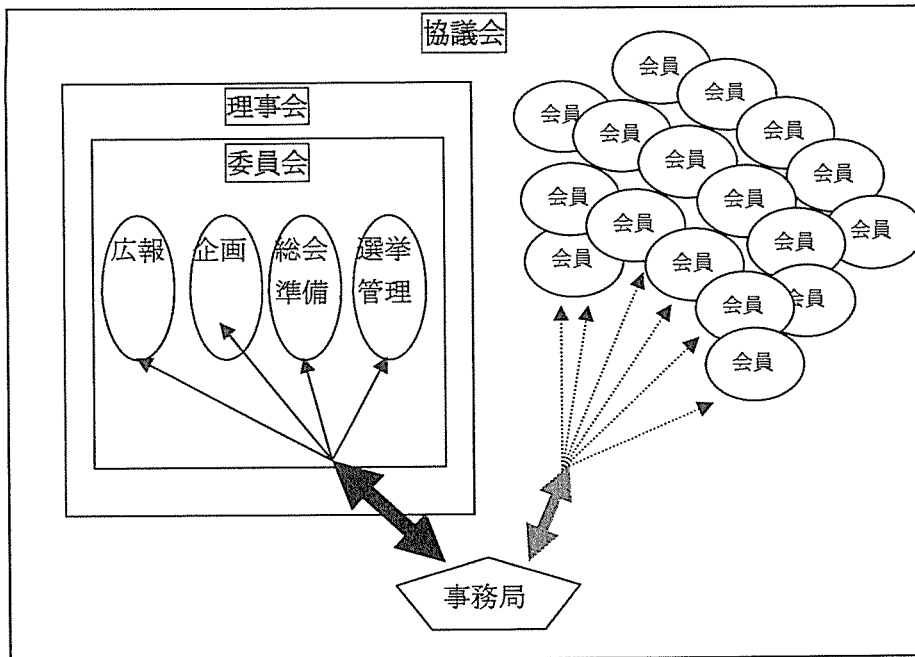


3) オプション 1——消耗品等事務経費を調達する

「ふるさと納税制度」事業費（50 万程度）を申請し、理事会・総会の会場費や消耗品等の経費をまかなう資金を調達する。

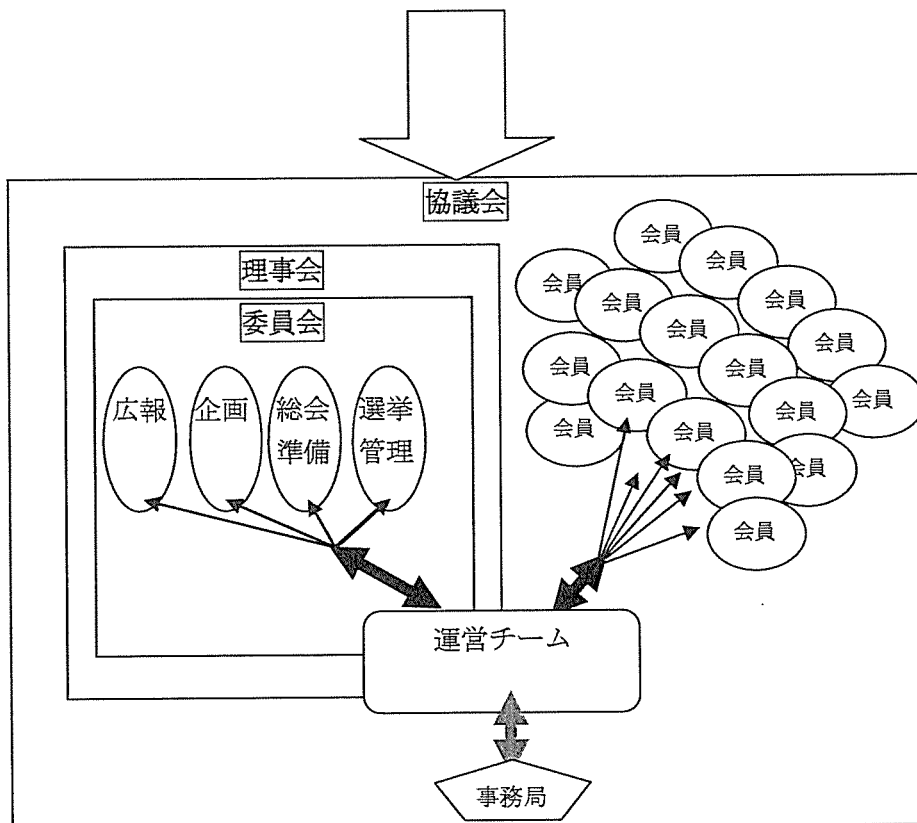
4) オプション 2——シンポジウム経費を調達する

助成金を申請し、シンポジウム開催経費をまかなう資金を調達する



理事会（委員会）：課題の検討・決議

事務局：課題の提案、会議の準備・開催・記録・フォロー、会員への連絡、経費の管理



理事会（委員会）：課題の検討・決議

運営チーム：課題の提案、会議の準備・開催・記録・フォロー、会員への連絡

事務局：(会議の準備・開催補佐)、(会員への連絡補佐)、経費の管理

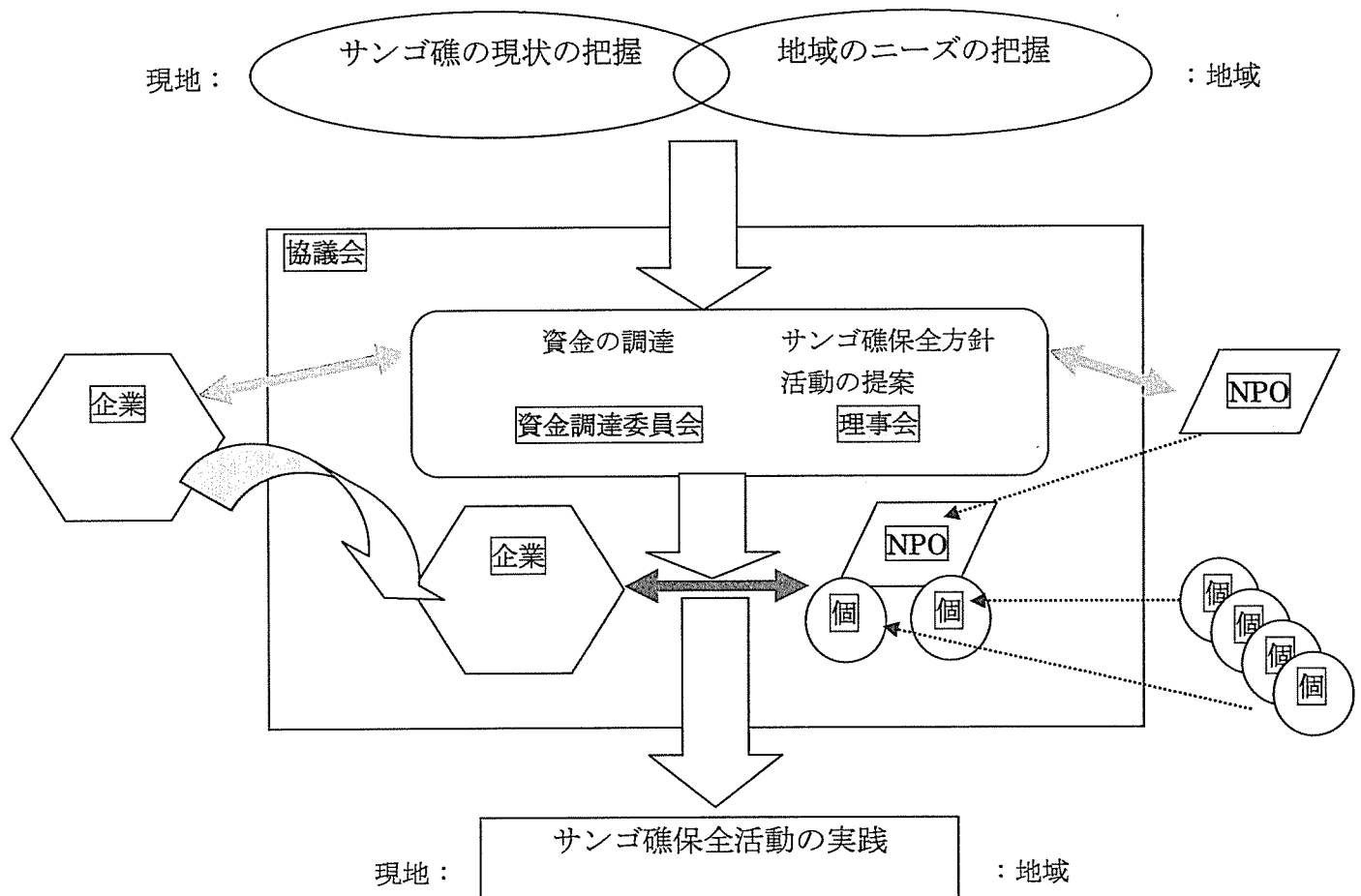
④-2. 保全活動の推進（サンゴ礁保全の方針検討と活動の推進：助成金や行政事業費等の資金調達による保全活動の推進）

協議会では、メンバーや県内の関係者など、サンゴ礁保全活動の実施に協力したい側と、企業や行政など実施を支援したい側の接点となり、サンゴ礁保全活動の実現を推進することが大きな役割のひとつである。

同時に、単にお互いのニーズを満たすだけでなく、科学的な知見を元に公正な視野に立ち、沖縄県のサンゴ礁保全にとって進むべき方向について提案することも、期待されるべき重要な役割である。

●「保全活動の推進」のプロセス

そこで協議会では、保全活動の推進のために、①沖縄県内のサンゴ礁の現状、②県内各地域でのサンゴ礁保全活動の状況及び要望を把握し、それらの状況から、③沖縄県内のサンゴ礁保全の進むべき方向、適切な保全活動を提案する。また、各地のサンゴ礁保全についての要望に答えるため、④適切な保全活動を実現するための資金の調達も行う。



●「保全活動の推進」の実施：資金調達委員会

保全活動の推進を実施するには、行政や各種団体等の基金や助成金等に申請してその資金を調達する。そのために、協議会に資金調達のための「資金調達委員会」を設置する。

資金調達委員会は、協議会から申請可能な基金や助成金を調査し、申請方法や時期等必要な情報を入手して理事会に報告する。理事会ではそれぞれの基金や助成金に適切な活動あるいはその方向性を提案し、協議会内の適切な団体／個人に申請を促して活動の実施を後押しする。

## 沖縄県サンゴ礁保全協議会の運営体制（案）

### 【協議会の組織体制】

協議会は、理事会及び委員会と事務局、会員によって組織される。

### 【理事会と委員会】

沖縄県サンゴ礁保全協議会（以下、「協議会」）は、理事会に以下の6つの委員会を設置し、協議会の運営を円滑に進める。

- ① 広報委員会：協議会の広報に関する活動を推進する
- ② 企画委員会：協議会の活動に関する企画を行う
- ③ 総会準備委員会：総会及びシンポジウムの準備を推進する
- ④ 選挙管理委員会：理事会選挙及び会員の募集を推進する
- ⑤ 資金調達委員会：基金、助成金等の活動資金の調達を推進する
- ⑥ 運営委員会：理事会及び協議会の運営を推進する

各委員会は、その活動の実施に当たり必要に応じて会員の中に作業部会を設置することができる。

### 【事務局】

協議会はまた、その活動を補佐するため以下のとおり事務局を設置し、理事会及び総会の開催準備及び開催の補佐、各種文書の保管、会員の管理及び経費の管理を行う。

名称：沖縄県サンゴ礁保全協議会事務局

Secretariat for Okinawa Coral Reef Management Conference

構成：事務局長1名、事務局員1名、会計1名

場所：(未定)

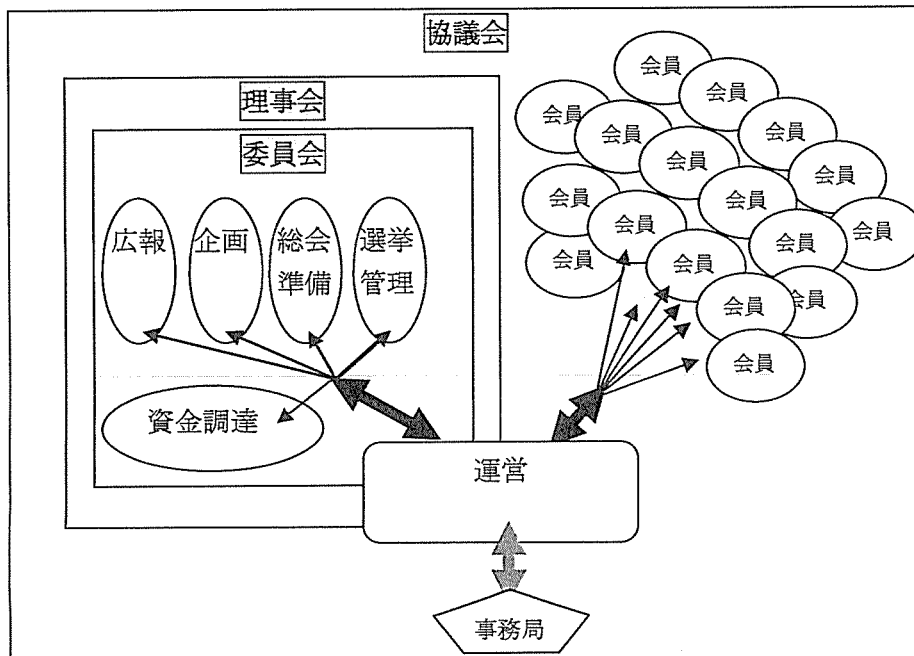
電話：(未定)

ファックス：(未定)

e-mail：(未定)

経費保管口座：(未定)

※なお、事務局は無償で業務を実施するが、理事会は、適切な基金や助成金等（沖縄県「ふるさと納税制度」の事業費等）を申請して、その事務局経費を調達する。



## 協議会の運営体制

以上の体制の下に、協議会では①協議会組織の運営業務と、②保全活動の推進を行う。

### ①協議会組織の運営業務（総会と理事会の開催）

#### 総会の開催

協議会は年1回の総会を行い、1年間の活動及び会計報告と翌年の活動計画を策定し、協議会を運営する。総会は、総会準備委員会が中心にその準備、開催を進める。

#### 理事会の開催

また、協議会の活動を円滑に進めるため、年3回程度理事会を開催する。理事会は運営委員会が召集し、開催の準備及び開催に当たっては事務局が補佐する。

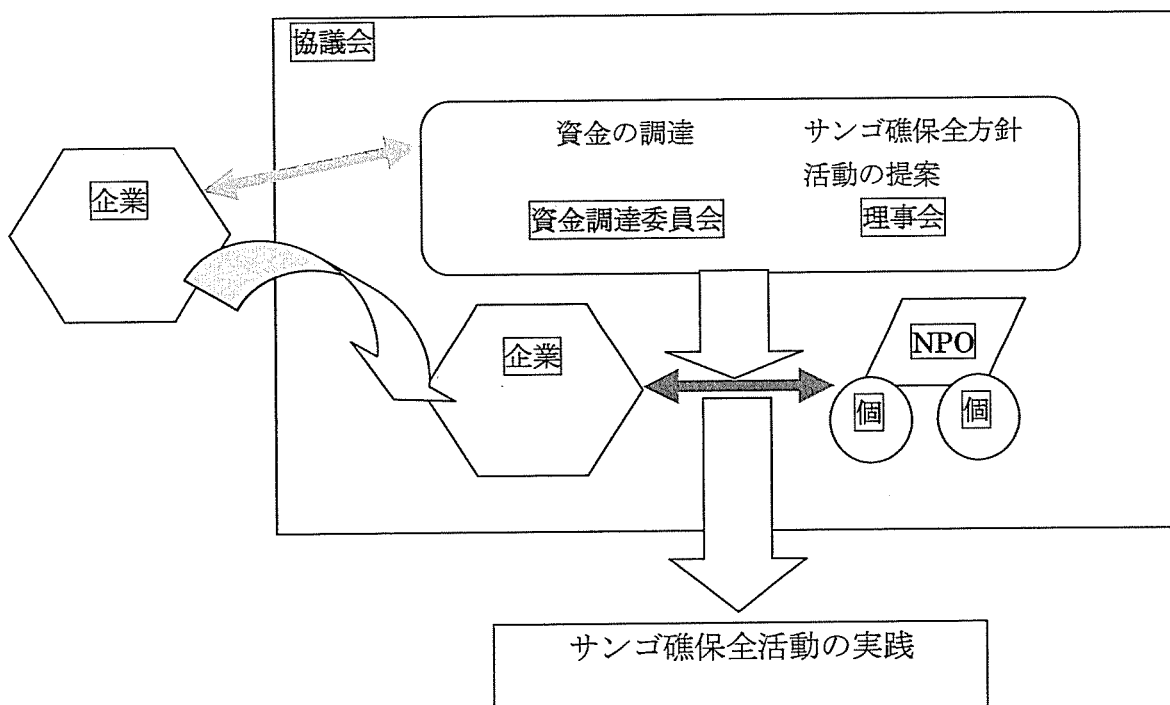
### ②保全活動の推進（資金調達と活動の提案）

#### 資金調達

資金調達委員会は、行政の業務費や基金、各種団体等の助成金、企業や個人等からの寄付金など、協議会が利用可能な資金を調査し、その申請方法や獲得方法等の情報を入手して理事会に報告する。

#### 適切な保全活動の提案と推進

理事会は、それらの情報を検討し、それぞれの資金源に適切なサンゴ礁保全活動あるいは活動方針を提案して、会員に告示する。そして、それらの活動の実施に適切な団体/個人を選出し、それぞれの資金の申請及び獲得を推進する。



参考：その他の基金及び助成金

1. セブンイレブンみどりの基金

- ・活動助成（上限無し）
- ・モデル事業助成（200万円/団体、原則3年間継続）
- ・NPO法人格取得助成（50万円/団体、原則3年間継続）

〆切：2009年1月31日まで

2. コンサベーション・アライアンス・ジャパン

- ・自然環境保護基金プログラム（10万円～50万円）

明確な行動指針があり、自治体や中央政府に対して法律を遵守するよう働きかけるグループの支援を望んでいる。

〆切：2008年10月31日まで

支援の募集は、〆切後も随時行っている。

3. 日立環境財団

- ・環境NPO助成（150万円/団体）

申請書に記載された活動内容に沿うものなら用途は問わない。

次年度への予算繰りこしもできる。

〆切：2009年1月23日まで

4. 全労済地域貢献助成事業

- ・環境分野一般助成（30万円/団体）
  - ・環境分野特別助成（100万円/団体）
- 直接経費以外に謝金を含む人件費もOK。

〆切：まだ始っていない。

募集期間は毎年3月下旬から4月上旬（10日程度）



## ⑤-1 平成 20 年度事業計画案

## ・メーリングリストの開設

協議会会員の相互交流を促すことを目的に会員間メーリングリストを開設し運営する。同時に HP の内容を充実させる。

実施主体:選挙管理委員会、事務局

時期:2008 年 12 月-2009 年 1 月

## ・リーフレットの作成-配布

県民に協議会への認知を促し、入会につなげるために協議会を紹介するリーフレットを作成-配布する。同時に HP の内容を充実させる。

実施主体:広報委員会、事務局、沖縄県

時期:2008 年 12 月-2009 年 2 月

共催:沖縄県

## ・ワークショップの開催と保全活動の実施

協議会と地域、または地域内、地域間のネットワークづくりと相互の活動の相乗効果を高めるために、地域ワークショップや地域保全活動を実施する。

実施主体:事務局、沖縄県、地域の関係団体

時期:2008 年 12 月-2009 年 2 月

共催:沖縄県、地域の関係団体との共催

## ・サンゴ-ジュゴンに関するパネルの巡回展の開催

沖縄県民あるいは沖縄を訪れる観光客等にサンゴ礁の海の素晴らしさや身近な存在であること及び現状を知ってもらう、同時に協議会を紹介することを目的に、企画展を開催する。

実施主体:事務局、沖縄県、国際サンゴ礁年 2008 沖縄ワーキンググループ、地域の関係団体

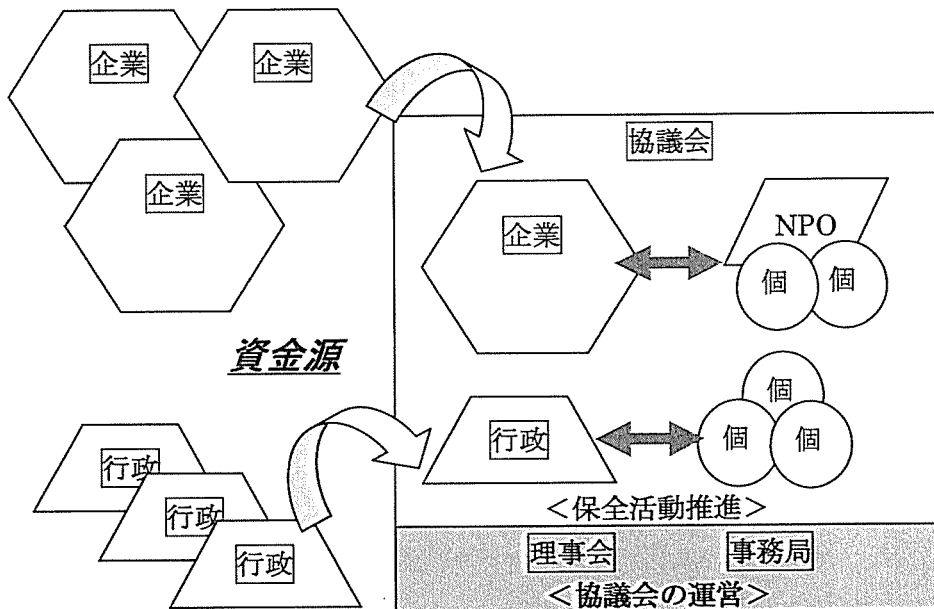
時期:2008 年 12 月-2009 年 2 月

共催:沖縄県、国際サンゴ礁年 2008 沖縄ワーキンググループ、地域の関係団体との共催

## ⑤-2. 平成 21 年度事業計画（案）

沖縄県サンゴ礁保全協議会（以下、「協議会」）は、沖縄県内のサンゴ礁保全活動を推進し、健全なサンゴ礁生態系を維持し、持続的な利用による地域づくりを目指している。

設立後最初の年に当たる平成 21 年度は、協議会組織を維持・運営するとともに会員によるサンゴ礁保全活動の推進を図る。



## 【協議会の運営】

協議会は、年 1 回総会を開催し、会印鑑の情報交換を行うとともに、前年の活動及び会計報告及び次年度の活動計画を決議する。

また、平成 21 年度の活動を円滑に進め、総会の準備及び開催を推進するため、年 3 回の理事会を開催する。

総会及び理事会の開催に当たっては、運営委員会が調整を行い、事務局は適宜その作業を補佐する。

なお、これら協議会の運営にかかる経費は、行政の業務費や基金等を申請して調達する。

## 【保全活動の推進】

協議会では、会員によるサンゴ礁保全活動を以下の 3 つの柱を軸に推進する。

- ①情報の収集と提供
- ②サンゴ保全のための提言
- ③資金の収集と提供

活動の推進に当たっては、下記委員会がそれぞれの柱を担当し、必要に応じて協議会の中に作業部会を設置して行う。

- ①情報の収集と提供：広報委員会
- ②サンゴ保全のための提言：企画委員会
- ③資金の収集と提供：資金調達委員会

平成 21 年度は、それぞれの柱について以下の活動を行うものとする。

①情報の収集と提供：『沖縄県のサンゴ礁の現状取りまとめ』  
沖縄県内のサンゴ礁の現状に関する既存情報を収集し、サンゴ礁の現状について取りまとめる。取りまとめた情報は協議会ホームページで公開する。

②サンゴ保全のための提言：『沖縄県におけるサンゴ礁保全活動の提案－平成 21 年度版－』  
①で行った評価結果を元に、必要な対策と保全活動の方向、及び実施可能な保全活動を提案する。

③資金の収集と提供：『サンゴ礁保全についての地域の要望調査』  
②で提案された活動について、必要な資金を供給できる資金源を調査し、申請手続き等その獲得情報を入手して会員に公開し、活動の実施を推進する。

平成 21 年度は、沖縄県内のサンゴ礁保全に関する要望調査を行い、各地の人々がどのようなサンゴ礁保全活動を求めているか把握する。

なお、この活動は、WWF J のプロジェクトと連携して行うことで、その経費をまかなう。活動の実施に当たっては、協議会メンバーの中で適当な団体／個人を選定して委託する。

#### 【活動の期間】

上記の 3 つの活動期間は、平成 21 年 4 月 1 日から平成 21 年度の総会までとする。

#### 【活動の報告】

なお、活動の結果は平成 21 年度の総会で報告し、協議会ホームページで公開する。また、理事会より指示のあった場合は、逐次中間及び進捗状況を報告する。














#### 【活動経費】

①及び②の活動は、各委員のボランティアによるため、発生する消耗品、事務管理費等は、協議会の運営費でまかなう。

③の活動にかかる経費は以下のとおりであり、WWF J より支払われる。

人件費：	万円
調査旅費：	万円
報告書作成経費：	万円
消耗品費：	万円
事務管理費：	万円
消費税：	万円
合計：	万円

【活動日程】

活動	4 5 6月	7 8 9月	10 11 12月	備考
<p>①情報の収集と提供 ～沖縄県のサンゴ礁の現況～</p> <p>情報収集 取りまとめ 報告書の作成 報告（総会）</p>			 	
<p>②サンゴ保全のための提言 ～沖縄県におけるサンゴ礁保全活動の提案～</p> <p>現況報告会開催 保全活動の検討 提案取りまとめ 報告（総会）</p>		 	 	
<p>③資金の収集と提供 ～サンゴ礁保全についての地域の要望調査～</p> <p>要望調査 結果分析 取りまとめ 報告書作成 報告（総会）</p>		  		<p>WWFJ のプロジェクト執行年度は10月から翌年9月</p>

## 3) シンポジウムについて

## A案（※ML上での協議中の安村案）

## ●構成：（120分）

- 1) 活動交流会（開場から閉場までロビーで開催）  
サンゴ礁保全活動を展開中のNPOや団体、個人の  
（適宜）参加者同士の名刺交換会やチラシ交換を兼ねる
- 2) 基調講演：（15分）
- 3) ワークショップ：（105分）
  - 1) 全体説明（「発表→意見交換→取りまとめ」の流れを説明）
  - 2) 小グループにわかれての意見交換会
  - 3) 全体が集まり、各グループからの意見を取りまとめ。

\*意見交換のテーマはひとつにする。

テーマ：「ネットワークをつくる意義。協議会への期待」

同一テーマについて各グループ内で意見交換を行うことで、話題の拡散を防げ、他グループの意見発表への興味も増し、時間も短縮できる。声の小さい人も意見を述べやすい。

## B案（企画委員会の原案）

## ●構成：（120分）

## 1) 基調講演：

- 案①高樹沙耶さん：「持続的なサンゴ礁の利用による地域づくり」  
案②神田優さん：「持続的なサンゴ礁の利用による地域づくり」

（休憩）参加者同士の名刺交換会やチラシ交換を兼ねる

## 2) ワークショップ：

- 2-1) 全体説明（「発表→意見交換→取りまとめ」の流れを説明）
- 2-2) サンゴ礁保全活動を展開中のNPOや団体、個人の活動紹介発表
- 2-3) 小グループにわかれての意見交換会（ファシリテーター：発表者、理事会、事務局）
- 2-4) 全体が集まり、各グループからの意見を取りまとめ。

\*意見交換のテーマ：以下の5テーマについてグループ内で意見交換を行う。

テーマA：サンゴ礁の保全とわたしたちの生活・文化を存続させるには

テーマB：サンゴ礁の危機を日常的に意識させるには

テーマC：地球温暖化とサンゴ礁保全と環境教育

テーマD：サンゴの移植を通して見えてきた沖縄の環境問題の本質

テーマE：地域のサンゴ礁保全についてしたいこと／してほしいこと

\*基調講演、ワークショップの総合司会：寺田麗子さん

## ●シンポジウム会場の待合い空間でのパネル展示について

※詳細な内容については未だ議論されていない。

会員リスト(平成21年11月7日現在)

1	NPO法人沖縄O.C.E.A.N.	42	砂辺のサンゴを見守る会
2	NPO法人沖縄県ダイビング安全対策協議会	43	諏訪 僚太
3	NPO法人読山原	44	多々良 裕俊
4	NPO法人国際コーラル&マングローブアクション	45	千葉 日比魚(ちば ひびな)
5	WWFジャパン(財団法人世界自然保護基金ジャパン)	46	北谷町漁業協同組合
6	アクアアートカフェ ダイビングサービス	47	寺田 麗子
7	泡瀬干潟を守る連絡会	48	菅銘 美奈子
8	伊江漁業協同組合	49	渡嘉敷 義浩
9	石垣市	50	渡嘉敷ダイビング協会
10	石垣島エコツアーりんばな	51	徳里 政哉
11	石西礁湖自然再生協議会	52	特定非営利活動法人 海の自然史研究所
12	上里 幸秀	53	特定非営利活動法人 沖縄エコツーリズム推進協議会
13	エコガイドカフェ	54	特定非営利活動法人マングローブEクラブ
14	沿岸海洋調査(株)沖縄支店	55	独立行政法人海洋研究開発機構 国際環境情報セン
15	大久保 奈弥	56	中野 義勝
16	沖縄環境調査株式会社	57	中村 崇
17	沖縄県衛生環境研究所	58	中谷 誠治
18	沖縄県漁業協同組合連合会	59	中山 恭子
19	沖縄県文化環境部自然保護課	60	なきじん海辺の自然学校
20	沖縄県宮古支庁	61	西平 守孝
21	沖縄県八重山支庁総務・観光振興課	62	日本サンゴ礁学会
22	沖縄県文化環境部環境整備課	63	パラダイダイビングスクール
23	沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課	64	藤田 喜久
24	沖縄体験ニライカナイ(有)ニライカナイ	65	古瀬 浩史
25	沖縄県立博物館・美術館	66	北限のジュゴン調査チーム・ザン
26	梶原 健次	67	八重山観光フェリー株式会社
27	株式会社 沖縄環境保全研究所	68	八重山ダイビング協会
28	株式会社Aqua Culture Okinawa	69	屋我地エコツアーネット
29	株式会社イーエーシー	70	山川 英治
30	株式会社エフエム那覇(那覇経済新聞)	71	山野 博哉
31	環境省那覇自然環境事務所	72	有限会社 海の種
32	具志堅 宗弘	73	有限会社コーラルクエスト
33	クラブノア母島(中西健二)	74	有限会社ちむちゅらさ(NATUREWORKS・BLUETRY)
34	黒島研究所	75	有限会社三浦クリエイティブ
35	後藤 亜樹	76	(有)やんばる自然塾
36	桜井 国俊	77	沖縄リーフチェック研究会
37	佐藤 基之	78	株式会社 東京久栄 沖縄営業所
38	鹿熊 信一郎	79	山城 秀之
39	社団法人伊江島観光協会	80	大竹 里佳
40	ジュゴンネットワーク沖縄	81	八重山サンゴ礁保全協議会
41	ジュゴン保護キャンペーンセンター	82	和田 雅昭

個人 27  
団体 55

アンケート中間報告

件数

1) 団体/個人で重点的に行っている保全活動を教えてください。	4. 環境教育/人材育成	24
	1. モニタリング/調査(被度、水温、赤土、白化など)	21
	5. イベント企画・開催	19
	11. その他( )	17
	3. サンゴ片移植	11
	2. オニヒトデ駆除	7
	9. 技術開発	7
	10. 保全計画策定	5
	6. 資金調達・提供	4
	7. 政策提言	3
	8. 資源管理/監視	3
2) 団体/個人の主な活動地域と主要な活動スタッフの人数を教えてください。	1. 市町村内	16
	2. 複数の市町村	9
	5. 国内全域	9
	3. 都道府県内	7
	6. 国内と海外地域	6
	4. 行政区単位でない	5
	A. 1~5名	23
	C. 11~20名	9
	B. 6~10名	6
	D. 21~50名	6
F. 100名以上	3	
E. 51~100名	2	
3) 団体/個人で最も憂慮している	3. 資金不足	18
	1. 人材不足	17
	4. その他( )	7
	2. 情報不足	6

1)-11. その他の回答

- ・ (実績はなし)
- ・ 連絡調整
- ・ 広報
- ・ 養殖
- ・ 保全を念頭においたサンゴ礁研究
- ・ サンゴ白化についての生理学的研究
- ・ 現在は活動していません
- ・ 雑誌記事の執筆、掲載
- ・ 研究活動、情報交換
- ・ 研究活動
- ・ エコツアー
- ・ クリーンアップ
- ・ 自然案内業
- ・ サンゴ礁域に生息する生物の種多様性の理解に関する研究
- ・ 埋立を中止させる
- ・ 赤土・栄養塩等の陸域からの負荷対策
- ・ サンゴ養殖から植え付けまで
- ・ 環境保護団体のWEBポータルサイト運営

3)-4. その他の回答

- ・ 団体としての組織的取組みが弱い
- ・ 活動内容の告知不足
- ・ 行政の認識不足
- ・ 特に無し
- ・ 各組織間の連携や理解不足
- ・ リーダーが不足
- ・ リーフ干出サンゴ礁の利用
- ・ サンゴ礁生態系の理解不足